



【実践編①】 実践編の内容と読み方・使い方

実践編では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に力を入れて取り組む全国の小・中学校及び高等学校の9校を取材し、取材に基づいて各記事を作成しています。取材校は、各校の授業づくりにおける重点や特徴を大切にしつつ、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のために以下の内容にバランスよく取り組んでいる学校を選定させていただきました。

- ① 資質・能力の育成を目指した単元での授業づくり
- ② 単元計画の共有等を通じた子供たちが自ら学習を調整しようとする学習環境の設定
- ③ デジタル学習基盤の整備・活用
- ④ 学級経営・学習集団づくり、学校経営・教職員集団づくり

各記事は各校の実際の授業の様子や、授業づくりの取組についてのインタビュー内容を基に、およそ次の内容で整理し、内容がイメージしやすいよう、授業場面の写真やハイライト動画、単元計画などの資料画像等を掲載しました。

- 授業づくりの取組の全体像とそれまでの経緯
- 単元による授業づくりの要点や考え方
- 実際の授業場面とその特徴
- 授業づくりを支える学校全体としての取組

各記事で取り上げた実践はいずれも、学習指導要領や同解説に照らして改善の余地がないものとしてお示ししているものではありませんし、様々な課題に直面しながら授業改善を続けてきた、いわば挑戦途上の実践です。記事の中では、授業づくりの過程における各校や教師の悩みや葛藤、失敗談なども掲載させていただきましたが、それらに真摯に向き合い、授業改善に挑み続けてきた各校や教師の努力と熱意に敬意を払いつつ、各校の取組をポジティブに受け止めていただくことを願います。

また、記事で取り上げた単元はあくまで各学校全体の実践の一部分であり、学校の教育活動全体を通じて様々な工夫を行いながら資質・能力の育成を図っているものです。また、各学校の地域や子供たちの実態に応じて適した実践は異なると考えられます。したがって、読者の皆様には、「これが正解」「これさえ取り入れればよい」といったように、特定の学校の方法をそのまま取り入れようとするのではなく、それぞれの地域や子供たちの実態を踏まえて、記事で取り上げた各校の取組のエッセンスを自校の文脈で捉え直し、多様で豊かな実践につなげていただければ幸いです。

実践編①

「ワクワク」と「資質・能力」の
どちらも諦めない！
戸田市立戸田東小学校の挑戦

全ての子供が熱中できる 単元づくり

【実践編①】 全ての子供が熱中できる単元づくり

～「ワクワク」と「資質・能力」のどちらも諦めない！

戸田市立戸田東小学校の挑戦～

埼玉県戸田市は、PBL（Project Based Learning）、ICT・データ活用、産官学の連携などにより、全国でも先進的な教育改革を進めています。各教科の授業づくりについても「戸田型授業改善モデル」を掲げ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めるための指導用ルーブリックを開発するなどの取組を進めています。

（「戸田市アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック」）

<https://www.toda-c.ed.jp/uploaded/attachment/20394.pdf>

戸田東小学校では、子供の興味・関心を生かした探究的な学習の充実により、「子供主体の学び」への転換を目指して授業改善に取り組んでいます。本記事では、清水教諭の実践にフォーカスし、全ての子供がワクワクしながら資質・能力を身に付けていく授業づくりへの挑戦について迫っていきます。

1. 取組のポイントと経緯～すべての子供たちがワクワクする授業がしたい～

清水教諭は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現するために、単元終末に魅力的なパフォーマンス課題（＝社会の実際の課題解決に近づけた、実物の完成品・プレゼンなどの実技による課題）を設定し、子供たちが課題に向けて楽しみながら学習を進める中で資質・能力を身に付けていく単元づくりに取り組んでいます。子供の意欲を引き出す単元の導入など教師による適切な指導や支援も行いつつ、子供たちが自分なりに追究したり、個々に追究したことを持ち寄って友達同士でさらに追究を深めたりする学びを大切に単元全体を構想します。

しかし、こうした授業づくりに日常的に取り組めるようになるまでには、いくつかのきっかけがありました

（1）経緯① 子供も教師も悴からはみ出せない息苦しさ

今から6年前。清水教諭が戸田東小学校に赴任した当時は、GIGA スクール構想も教科担任制も導入されていなかった時代です。日々の業務に余裕がなく、教科書、教師用指導書を基に毎日の授業準備

に明け暮れていたといいます。多忙な日々を送る中では、1コマずつの授業をこなすことで手一杯で、「45分で教科書の〇〇までを教えこまなければならない」という意識が強くあり、子供たちが自席でしっかりと教師の話を聞くこと、板書どおりにノートに写すことなどを重視せざるを得ませんでした。そこには、子供も教師も、枠から少しもはみ出せない息苦しさがあり、もっと子供のワクワクが見られる、みんなが楽しめる授業をつくりたいという思いがあったといいます。

（２）経緯② きっかけは１人１台端末と教科担任制

転機になったのは、GIGA スクール構想でした。清水教諭は１人１台端末の配備が、「自分の中での当たり前」の問い直しをもたらしたと語ります。

「子供たち自身が必要な情報にいつでもアクセスできる！」「教師が全ての情報を準備・提示する必要はなく、もっと子供たち自身が学び取ることもできるのではないか・・・」「子供たちの学ぶ場所だって、もっと自由でいいはず」「これまで行ってきた板書をノートに写すという授業の在り方も当たり前ではないのでは」



１人１台端末を活用する子供

また、同時期に教科担任制（同校では４年生以上で完全実施）を導入したことで、教科を絞って準備ができるようになり、子供たちのためにもっと授業を工夫できるはずだと考えるようになりました。

このように、１人１台端末と教科担任制の導入が、それまでの授業に対する「自分の中での当たり前」を問い直す大きな契機となりました。

子供たちがもっと楽しく学び、かつ、育成すべき資質・能力をしっかりと身に付ける授業はできないか。子供たちにとって「自分事」になる学びのデザインはできないか。そのためには、単元という時間のまとまりで授業を作る中で、子供が自己調整・自己決定できる時間を生み出していくことが必要ではないかと考えるようになりました。ここから清水教諭の授業は、「子供主体の学び」への転換を目指し、「45分で作る授業」から「単元で作る授業」へと変わっていきました。

２．単元づくりのポイント～「ワクワク」と「資質・能力」を意識した学びのデザイン～

清水教諭の単元づくりでは、主に以下のポイントが意識されていました。

- ① 学習指導要領を基に、全ての子供に育みたい資質・能力を定める

- ② 単元の計画は、学習計画として単元のはじめに子供たちに共有する
- ③ 多様な子供たちが楽しんで取り組むことができ、資質・能力の育成に繋がる魅力的なパフォーマンス課題を設定する
- ④ 「活動あって学びなし」とならないよう、単元の評価ルーブリックを作成し、これも子供たちにあらかじめ提示する。

取材したのは、5年生の社会科「自動車をつくる工業」の単元です。この単元の学習内容について、学習指導要領では次のように示されています。

ア(イ) 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。

イ(イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

この学習内容に対応した単元を実施するに当たり、清水教諭は、自動車工業に関わる人々の「思い」や「願い」から子供たちの興味・関心を高め、工業生産に関わる人々の工夫や努力を自分事として捉えさせたいと考え、次のようなプロジェクト型単元を構想しました。

- ・単元名：自動車をつくる工業～みんなの願いを乗せた夢のクルマプロジェクト
- ・単元のゴール：子供たちが「トヨタ夢のクルマアートコンテスト」に作品を出品
- ・指導計画：自動車生産に関する学習（社会科 7 時間）＋コンテスト作品の制作（図画工作科 4 時間）※合科的な扱い

みんなの願いを乗せた 夢のクルマプロジェクトの学習計画		
		学習活動
きっかけ	1 時間目	単元の学習計画を知ろう。 作り手の「思い」や「願い」を、作り手になりきって考えてみよう。
計画	2 時間目	作り手の「思い」や「願い」から、学習課題を立てよう。
探究	3～5 時間目	設定した課題の解決に向けて、探究活動を進めよう。
発表	6 時間目	探究してきた作り手の「思い」や「願い」を伝えよう。
まとめ	7 時間目	作り手の「思い」や「願い」をまとめよう。
制作	8～11 時間目	第18回トヨタ夢のクルマアートコンテストに参加

本単元の学習計画

3. 実際の授業のワンシーン～「ワクワク」を引き出す単元の導入～

清水教諭と 30 人の子供たちの授業が始まります。取材した授業は 11 時間扱いの 1 時間目、単元の導入にあたる時間です。授業の冒頭で清水教諭は子供たちに「自動車って好き？」「日本にとって自動

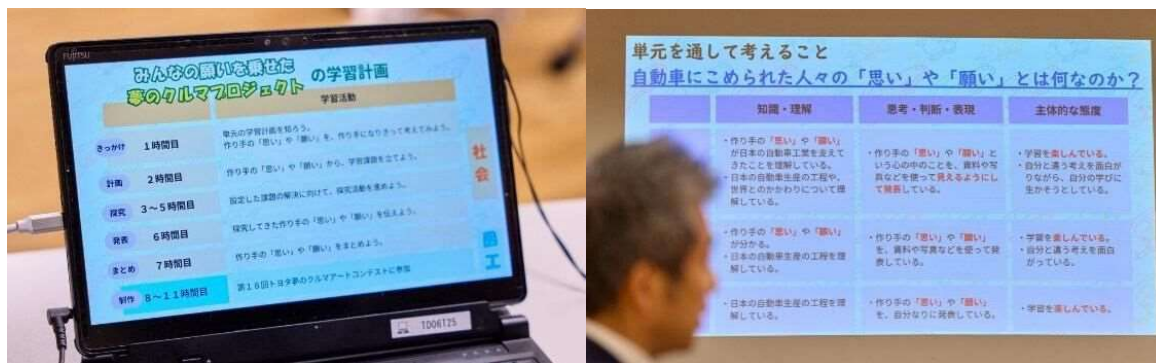
車ってどんなもの？」と問いかけ、徐々に自動車関連の仕事に関する話題へ移り、「自動車をつくる人々の思いや願い」について考えられるように展開していきます。清水教諭のファシリテートにより対話的に進む授業の中で、子供たちは自分の端末に示されたスライドや資料をもとに話し合ったり、メモをとったりしながら、自動車づくりに対する興味・関心を高めていきます。



自動車づくりへの興味・関心を高める単元導入

今回は「生産者の思いや願い」を軸に自動車産業を探ることで、「子供たちがそれぞれの追究を進めながら主体的に関われるよう単元をデザインした。」と清水教諭は語ります。単元の導入では、これまで学んできた単元との関連や、自動車づくりに関わる人々の思いや願いに気付かせるやりとりを通じて、徐々に子供たちの追究意欲が高まってきました。

そして、単元の終盤に「トヨタ夢のアートコンテスト」に挑戦することを告げると、子供たちは「やってみよう！」「イエーイ！」「楽しそう！」と大盛り上がりでした。学習に対して前のめりになった子供たちに対し、清水教諭は11時間の単元全体の流れや評価基準にあたるルーブリックを示します。



子供たちに示された単元全体の流れやルーブリック

単元についての説明が終わると、清水教諭は子供たちに「もしも自分がつくり手だったら、どんな思いや願いをもつ？」と投げ掛け、「カーデザイナー」「生産者」「輸送者」「販売者」いずれかの立場で考えることを促します。自動車の生産の仕方を調べ出す子供。どのようなデザインの自動車があるかを調べたり、理想のデザインを考えたりする子供。家族で自動車の販売店に行った経験を話し合う子供。子供たちは端末を活用しながら、それぞれの興味・関心に応じて追究をスタートさせ、教室のいたるところで子供同士のディスカッションが行われていました。



自動車の作り手の立場に立って調べたり話し合ったりする子供たち

※授業ハイライト動画（「note」に掲載）

その後、「カーデザイナー」「生産者」「輸送者」「販売者」それぞれの立場で考えたことを全体で共有し、子供たちの「もっと調べたい」「もっと考えたい」という意欲を高めながら導入の時間が終わりました。

4. 授業づくりのポイント～清水教諭・高橋校長インタビューより～

「単元丸ごとと子供とシェアします。」授業前のインタビューで清水教諭は語りました。

清水教諭は単元の導入で、単元のゴールやプロセス、評価基準（ルーブリック）など、これまで教師側の「手の内」と考えてきたことをすべて子供たちと共有しています。また、導入時のスライドや必要な資料なども、子供たちの端末に共有され、全員がいつでも見られるようにしています。

なぜ「単元の丸ごととシェア」を大切にしているのか。そこには清水先生がこのような授業づくりに至るまでの道のりで得た次のようなポイントがありました。

（１）単元で授業をつくる意義

子供たちがワクワクできる授業をつくるためには、

- ・「単元のゴール」を広めに取りつつも明確に示すこと
- ・ゴールに至る活動において「自己選択・自己決定」ができること
- ・それらにより子供たち自身が「学びのオーナーシップ」を感じられること

が重要であると清水教諭は考えています。

その際、教師が教えずに子供たちから学びの機会や主体性を奪ったり、逆に任せすぎて学びの質の低下が起こったりしないように進めていく必要があります。また、単元導入の1時間目を重視し、教材との魅力的な出会いを演出するとともに、単元のゴールやプロセスなど全体のイメージを子供たちと共有します。子供たちが「楽しそう！」「やってみたい！」と思えることが、単元を通して自ら学び続けるエネルギーとなるからです。

（２）パフォーマンス課題の設定

学習のゴールに当たるパフォーマンス課題の設定はとても大切だと清水教諭は考えています。単元のはじめからゴールが明確になっているからこそ、子供たちに学びの多くを委ねることができ、多様な学び方が許容されるパフォーマンス課題を設定することで、多様な特性をもつ子供たちの追究を授業の中で受け止めることもできると言います。

一方で「ワクワク・楽しい」を追究する際に失敗したこともあるそうです。たとえば「暑い地域・寒い地域」の単元ではパフォーマンス課題に「それぞれの地域を紹介する30秒のCMづくり」を設定しましたが、多くの子供たちは動画編集自体が楽しすぎて、教科の学習内容が今一歩深まらないものになってしまったそうです。

（３）ルーブリックの作成と提示

子供たちをワクワクさせたい。しかも「資質・能力」も身に付ける授業デザインはできないか。そのために重視しているのがルーブリックです。ルーブリックとは、パフォーマンス課題において学習の到達度を評価する際に使用する評価基準のことです。この評価基準は、子供自身が自らの学びを調整したりチャレンジしたりすることができるよう、子供にとって分かりやすい言葉で作成し、子供にも共有します。

これを指針に子供たちはパフォーマンス課題に取り組みます。先ほどのCM作りの例でいえば、CM作りというパフォーマンス課題のルーブリックに身に付けさせたい資質・能力を適切に位置付けることで、「楽しさ」と教科として育成を目指す「資質・能力」を両立させることができたのではないかと清水教諭は振り返ります。ルーブリックは単元の振り返りの時の基準にもなり、それを基に子供たちは学習を振り返り、教師は子供たちの学習評価を行います。

単元を通して考えること 自動車にこめられた人々の「思い」や「願い」とは何なのか？			
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的な態度
A	- 作り手の「思い」や「願い」が日本の自動車工業を支えてきたことを理解している。 - 日本の自動車生産の工程や、世界とのかかわりについて理解している。	作り手の「思い」や「願い」という心の中のことを、資料や写真などを使って「見えるようにして発表」している。	- 学習を楽しんでいる。 - 自分と違う考えを面白がりながら、自分の学びに生かそうとしている。
B	- 作り手の「思い」や「願い」が分かる。 - 日本の自動車生産の工程を理解している。	作り手の「思い」や「願い」を、資料や写真などを使って発表している。	- 学習を楽しんでいる。 - 自分と違う考えを面白がっている。
C	日本の自動車生産の工程を理解している。	作り手の「思い」や「願い」を、自分なりに発表している。	学習を楽しんでいる。

本単元のルーブリック

このようなルーブリックがあることで、子供の活動が脇道に外れることがあっても本筋に戻ることができ、多様な追究を進める子供たち一人一人に対して教師もブレない声掛けができるようになると言えます。

5. 学校全体で取り組むポイント～清水教諭・高橋校長インタビューより～

戸田東小学校では、授業改善に向けて学校全体で支え合う体制が重要と考えています。そのため、新しく赴任した教員には「スタートアップ研修」を行い、戸田東小学校が大切にしている授業づくりの考え方や1人1台端末の活用の仕方について対話形式で伝えています。

また、教員3人組を1チームとして授業を見合うことが日常的に行われています。3人組くらいだと授業を気軽に見合うことができるといいます。この3人組の組み合わせは、年齢や経験年数等のバランスを踏まえて意図的に編成しているそうです。

教師が自分の実践に閉じこもらず、授業を見合うことで、目指す授業の在り方を共有したり、他の教師から授業づくりのノウハウを吸収したりする機会は教師にとって多くの学びをもたらします。そういった取組を根付かせ、授業改善に向けた学校全体の文化として醸成することで、教師自身が授業づくりに前向きに取り組む土台ができているのです。

6. 終わりに

戸田東小学校では、子供がワクワクする「子供主体の学び」に向かうために、「教師主導の単位時間ごとの授業づくり」から「子供と丸ごとシェアする単元全体での授業づくり」へと大きく転換を図りました。新しく赴任した教員でも無理なく授業づくりに取り組めるよう、ルーブリックの作成や端末の活用法などを校内研修に位置付け、日常の中で授業づくりの学びを共有できる仕組みを作りました。教科担任制による時間的余裕の創出も、このような授業づくりの取組を支える重要な要素となっています。

本記事が、全国の多くの先生方にとって、それぞれの専門性を発揮し、子供たちがワクワクするような授業へと改善していくヒントになってほしいと願っています。

実践編②

学習の自己調整と協働を
ICTが支える！
富山市立芝園小学校の挑戦

子供一人一人が学びの主役となる 「複線型」授業づくり



【実践編②】子供一人一人が学びの主役となる「複線型」授業づくり ～学習の自己調整と協働を ICT が支える！富山市立芝園小学校の挑戦～

子供一人一人がそれぞれの興味・関心や理解度に合わせて学習課題や学習の進め方、学習形態等を自ら選択しながら学びを進め、教室において同時に多様な学びが生まれる授業。このような授業を、芝園小学校では「複線型」授業と呼び、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた新たな学びのスタイルとして研究を進めています。

本記事では同校の広瀬教諭の授業実践を取り上げ、子供の主体性の育成に真正面から向き合い、子供一人一人が主役となる「複線型」の授業づくりに取り組む芝園小学校の挑戦に迫ります。

1. 取組のポイントと経緯～子供の主体性を追い求めて～

令和2年度に富山市の指定（「主体的な学び研修会」市推進モデル校）を受け、子供の主体性を育む授業について実践研究に取り組んだ芝園小学校ですが、大きな問いにぶつかります。それは、子供の学びに携わる者ならば誰もが抱き考え続けてきた「学びにおける子供の主体性とは何か？」「子供が主体的に学ぶとはどういうことか？」という本質的な問いでした。

この問いに向き合い、様々な授業の手法を取り入れながら試行錯誤を続け、新たな学びのスタイルとして「複線型」の授業を生み出してきました。

（1）ポイント① 子供の「主体性」を曖昧にしない単元構想

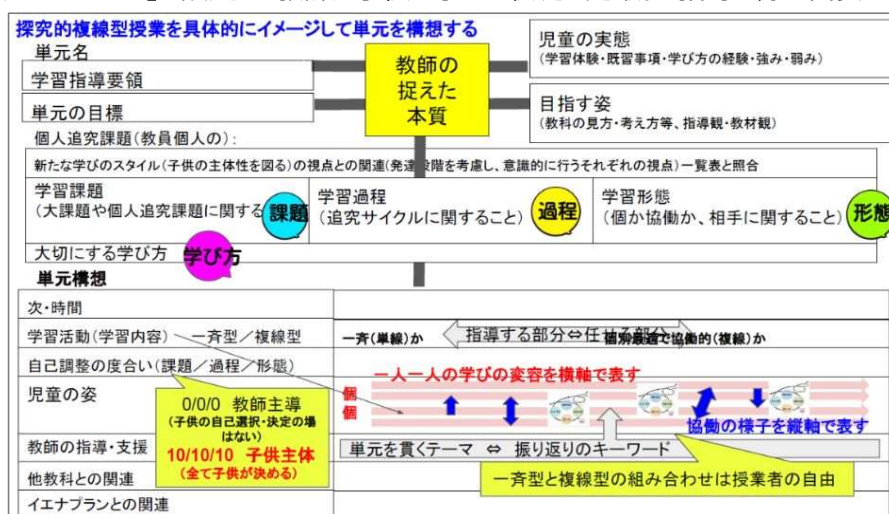
芝園小学校では、子供が主体性を発揮して学ぶことを「子供が自己調整しながら自分で自分の学びをつくること」ととらえ、そういった経験を積み重ねることで子供の主体性は一層育まれていくと考えています。しかし、単に子供に学習を任せるのでは、子供の主体性の発揮とさらなる育成は期待できません。

そこで、芝園小学校では、「学習課題」「学習過程」「学習形態」の三つの観点に着目し、子供が選択・決定しながら学びを進められるように単元をデザインし、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図ろうとしています。

- ① 学習課題…「何を追究するのか」（追究課題）
- ② 学習過程…「どのように情報収集し、分析し、表現するか」（問題解決的な追究のサイクル）

③ 学習形態…「個人で追究するか・協働で追究するか」（共に学ぶ人との関わり）

具体的には、「学習課題」「学習過程」「学習形態」において目指す子供の学びの姿を学年の発達段階に応じて設定し、その姿が実現するように教材や学習環境を整えます。また、三つの観点ごとに、「自己調整の度合いのスケール」を設定し、教師が子供の学びの状況を見取り、指導の際の目安とします。



複線型授業の単元構想図

これらは、子供の「主体性」を曖昧にしてきたそれまでの課題に正対し、どの教員も子供の姿を見取り、授業を評価・分析する際の共通の視点と尺度をもつことで、実践研究の質的な向上を図ろうとして設定されたものです。子供の主体性を本気で育もうとする芝園小学校の覚悟から生まれた授業づくりの考え方となっています。

(2) ポイント② 子供の主体的な学びを支える ICT の活用

(1) で述べたような、子供一人一人が主体性を発揮する学びを実現するための重要な要素として、ICT の活用があります。GIGA スクール構想による1人1台端末が配備されてから、芝園小学校では子供の自己調整や協働を促進するために、どのような端末の使い方がよいかを積極的に模索してきたといいます。

芝園小学校では、多様なアプリケーションの活用を通して、子供たちの「個別最適な学び」を促進しています。また、クラウド環境の活用により、子供が互いの考えや学習の進捗をいつでも参照できるようにすること（他者参照）で、「協働的な学び」を促進しています。



1人1台端末を学習に活用する子供

2. 単元づくりのポイント～子供一人一人が主体性を発揮する学びのデザイン～

芝園小学校の授業づくり・単元づくりでは、主に以下のポイントが意識されています。

- ① 学習指導要領を基に、全ての子供に育みたい資質・能力を定める
- ② 育みたい資質・能力を基に、単元で目指す子供の学びの姿を具体的に想定する
- ③ 単元における学習のまとまりごとに、子供が「学習課題」「学習過程」「学習形態」を選択・決定できるような手立てを用意する
- ④ 単元中盤から終盤にかけては、序盤の学習を生かしながら子供が自分の課題の解決に向けて追究できる活動を設定する
- ⑤ 単元を通した子供の追究意識（思考の流れ）を多様に想定する
- ⑥ 子供が主体的に学びを進められるように、単元のはじめに端末を通じて、単元の学習計画、個々の学習状況を記録するシート、学習を振り返るシートなどを共有する
- ⑦ 子供の学習状況や願い等の包括的・多面的な実態把握に基づき、一人一人の子供に合わせて支援の方法を検討する

取材したのは、広瀬教諭による3年生の理科「音の性質」の単元の授業です。この単元の学習内容について、学習指導要領では次のように示されています。

ア(ウ) 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わること。

イ 光を当てたときの明るさや暖かさの様子、音を出したときの震え方の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、光と音の性質についての問題を見だし、表現すること。

この学習内容に対応した単元を実施するに当たり、広瀬教諭は、子供一人一人が自分の課題をもち、必要に応じて友達と関わりながら、解決のために実験したり考察したりする追究のサイクルを回し、子供自身が学びをつくることができるように次のような単元を構想しました。

・単元名：比べて発見！音の性質～I-phone 研究所～

・単元計画：

一次 様々な物の音が出るときの様子について実験・考察・まとめ（2時間）

二次 糸電話で声が聞こえる仕組みについて実験・考察・まとめ（2時間）

三次 自分が伝えたい音の伝わり方をする糸電話に作り変えるための実験・考察・まとめ（5時間）

（本単元の学習指導案）

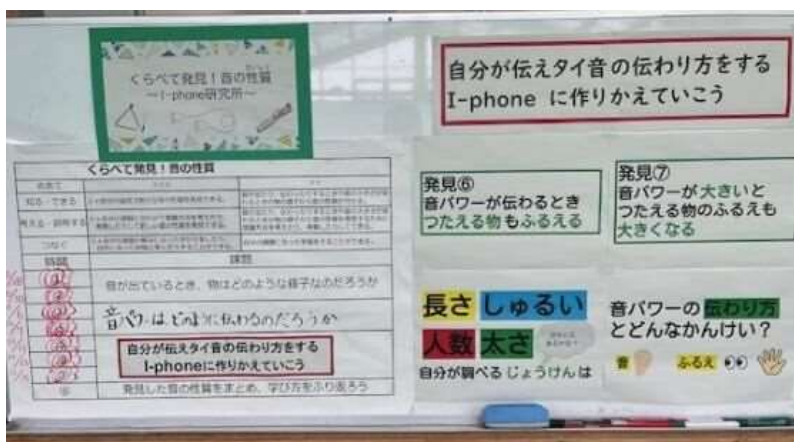
[3 学年 理科「比べて発見！音の性質～I-phone 研究所～」\(広瀬教諭\).pdf](#)

3. 実際の授業のワンシーン～子供が存分に主体性を発揮し、自ら学びを進める～

広い空間に子供たちが一か所に集まって授業が始まりました。取材した授業は9時間の単元の8時間目。単元の終盤で、自分が作りたい糸電話に作り変えるための実験・考察・まとめを行う最後の時間でした。広瀬教諭が「大切なのは学習のゴールに向かうことだよ」と短く確認すると、子供たちは思い思いの場所に勢いよく散らばっていき、活動をスタートさせます。



本時の学習について確認する広瀬教諭と子供たち



単元の学習の記録に関する掲示

子供たちは、「遠くまではっきり聞こえる糸電話」「人数を増やしても会話ができる糸電話」のように、自分の作りたい糸電話のイメージをもっています。その上で、糸の「長さ」「太さ」「種類」「つなぐ数」などの条件が変わると音の伝わり方はどのように変わるのかという課題を設定して実験・考察に取り組んでいました。どの条件に着目するかは子供たちがそれぞれに選択しており、また、4時間あるこの活動の中で自分の関心に応じて条件を変更している子供もいました。授業会場の一角には様々な材料や道具が用意され、子供たちがすぐに実験に使えるようになっていました。



設定した課題に基づいて実験に取り組む子供たち

この時間、多くの子供は同じ課題をもつ者同士で協力して実験に取り組んでいました。糸の「種類」を条件にした子供は、糸、紙テープ、リボンテープ、ビニールテープなど様々に素材を変えて実験し、音の伝わり方の違いに気付きました。「太さ」を条件にした子供は同素材で太さを変えて音の伝わり方を調べるため、毛糸1本の場合と数本を束ねた場合で比較するなど、工夫して実験に取り組んでいました。子供たちの発想は実に豊かです。「つなぐ数」を条件にした子供は、糸を複数本使い、2～3人で音を発する場合と受ける場合の両方で音の伝わり具合を調べ、予想したとおり、音を発する側が増えると音が大きくなることを確かめていました。「長さ」を条件にした子供の中には、広い空間を活かし、糸の長さを数十mまで伸ばして実験を行う姿も。いずれも、音の伝わり方を糸やテープの震えの大きさと関連付けて考察していました。

実験に夢中になるだけではありません。子供たちは実験の結果や結果から得られた気付きを、端末を用いて学習シートに記録していきます。言葉、数値、写真などを駆使しながら発見したことを丁寧に記録したり、記録したことを基にもっと調べたいことを話し合ったりしていました。

課題設定から情報収集、整理分析、まとめ表現までの一連の流れにおいて、子供自身が「何を、誰と、どのように学ぶか」を決め、子供が自ら学びをデザインしていました。



端末を活用して実験結果や考察を記録・共有

※授業ハイライト動画（「note」に掲載）

糸電話の音の伝わり方について、子供たちはたつぷりと追究に浸り、この時間の授業を終えました。次時は、いよいよ単元の最終時間。子供たちがそれぞれの追究を通して発見した音の性質についてまとめ、「I-phone 研究所」の学習は終わりを迎えます。

4. 授業づくりのポイント～広瀬教諭・鵜飼教諭（教務主任）・柳田教諭（教務主任）インタビューより～

授業後に広瀬教諭は「子供たちの姿を見ていると、本当に毎日楽しそう」と語っています。今回の理科の授業も、「もっと実験を続けたい」という子供たちの希望を受け入れ、単元終盤の指導時間を1時間追加しています。

子供たちが自己調整しながら、生き生きと自分で自分の学びをつくる。このような姿を生むための授業づくりの基盤となるものが見えてきました。

（１）一人一人の学びの「見える化」を促進する ICT の活用

芝園小学校では、1人1台端末とクラウド環境の整備により、子供たちのインプットやアウトプットの量とスピードが大幅に向上したといえます。このことが、芝園小学校の新たな学びのスタイルとしての「複線型」の授業を可能にしています。

① 学習の過程を記録・蓄積・共有

単元を通して、学習の記録はクラウド上（Google Classroom）に保存され、いつでもアクセスでき、他者参照・共同編集できるようになっていました。特に、学習過程を記録するスプレッドシートに「課題設定 ⇒ 情報収集 ⇒ 整理分析 ⇒ まとめ表現」といった追究のプロセスと各段階において「ここではこういう力が求められる」ということをループリックのように示していました。このことにより、子供が自分の学びの位置を自覚できるとともに、学習活動ごとに「どんなことをどの程度できるようになればよいか」を常に意識して取り組むことができ、各教科等で育成を目指す資質・能力を確かに身に付けていくことが期待できます。

また、実験の様子を記録するシート（FigJam のボード）もクラウド上で共有することで、誰がどのように学んでいるかを教師も子供も参照できるようにしています。子供たちはそれぞれの場所で条件を変えて糸電話の実験をしていましたが、実験の記録を即座に共有することで、友達の実験結果と比べて学んだり、一緒に話し合うきっかけにしたりしていました。教師は子供の学びの進捗をクラウド上で常に把握し、適切な支援に生かしていました。



端末を活用して実験の記録を蓄積・共有する子供たち



実験の記録シート

② 学習の振り返りを記録・蓄積・共有

単元を通した振り返りを1シートに記録・蓄積できるようにし、振り返りの視点や評価を明示していました。また、子供の振り返りに対して、教師が必要に応じてコメントを付与することで一人一人の学びを支援していました。

振り返りシートもスプレッドシートで共有し参照できるようにすることで、新たな発見につなげて学びを深めたり、次の時間に協働する相手を見付けたりできるようになっていました。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	くらべて発見！音の性質 〜i-phone研究所〜												
2	☆☆☆						☆☆						
3	知る・できる					☆+自分の追究で新たな音の性質を発見できた。							
4	考える・説明する					☆+自分の課題に合わせて実験方法を考えたり、考察したりして新しい音の性質を発見できた。							
5	つなぐ					☆+自分の課題の解決に合った学び方をしたり、目的に合った仲間と学んだりすることができた。							
6	日付	ふりがえり											
7		音の性質について どれか？と思っていること。発見！したこと。										文字数	先生コメント
8	10月28日	今日はトライアングルのしんどうのふるえを調べてみました。トライアングルのたたく強さを、弱さを調整してトライアングルを鳴らしました。										65	たたく強さとそのときのふるえ方に注目しているんですね。どうすればふるえ方を調べられるでしょうか？
9	10月30日	今日は、いろいろな楽器をなたしてそれをでるふるえを調べたり音のたたくかたや大きさを調べました。音はだんだん大きい音から小さい音になる。										71	どのような音の性質を発見しましたか？振り返りに書いてみよう。
10	11月6日	今日は、i-phoneを使って糸電話を作った糸が震えているのか震えていないのか調べたりi-phoneに口を当てて声を出してi-phoneの下のを震えと震えていました。										84	声のふるえがi-phoneに伝わるとコップも震えたんですね。どのようなふるえかたでしたか？
11	11月7日	今日は、ブルしてさんと一緒に糸電話で実験をしました。発見したことは糸をピンとはらうと音が聞こえにくいことです。										60	i-phoneで会話をしているときはコップや糸が震えているんですね。音をたたくて振動を伝えるんですね。
12		わたし(ぼく)は、遠くまで聞こえるi-phone (100m)										i-phoneを作りタイ！！	
13	11月11日	長さ	今日は、さんとさんと一緒に5メートルの糸を半分になっても両方聞こえるのかを実験しました。今日は、さんと一緒に糸を出す練習をし新しくオシロスコープという物を知りました。オシロスコープは小さな音でも聞くことができ糸電話の音も聞こえるそうです。										127

振り返りシート

(2) 子供たちの自己調整を支える教師の役割

広瀬教諭は今回の公開した授業においても、「学習課題」「学習過程」「学習形態」の3つの視点において、子供たち一人一人が自分の力でどの程度学びを進めることができるのかを、自己調整の度合いとして想定しました。そして、「学習課題」については、全ての子供たちが興味・関心に応じて設定できていると捉えた一方で、「学習過程」と「学習形態」、つまり、誰とどのように追究を進めるかについては、子供の選択や決定を尊重しつつも、教師の支援がある程度必要と判断しました。

授業では、実験に没頭するあまり追究すべき課題と正対した活動になっていない子供に対して、「課題は何だっけ？」「次はこうしようか？」などと具体的に確認したり提案したりすることで学びの軌道修正を図っていました。また、単元の中では、子供同士の学びの深まりを期待して「〇〇さんも同じこと考えているみたいだよ」と意図的に協働を促すこともあったそうです。



子供の学習状況に応じて支援を行う広瀬教諭

芝園小学校では、教師を「伴走者」として位置付けています。子供たちに寄り添いながら学びを深めたりつないだりする役割を担います。端末も最大限活用しながら子供たちの学習状況を丁寧に見取り、必要に応じて適切に行う教師の支援が、子供たちの質の高い自己調整と深い学びを支えています。

5. 学校全体で取り組むポイント～杉林校長・鵜飼教諭（教務主任）・柳田教諭（教務主任）・広瀬教諭・竹鼻教諭・多比木教諭インタビューより～

芝園小学校の授業づくりについて、取材時公開授業者の竹鼻教諭、多比木教諭も加えて行ったインタビューで伝わってくるのは、新たなスタイルの授業づくりに教職員が一丸となって取り組む雰囲気です。ただし、在籍する教師のキャリア、考え方、持ち味は多様です。杉林校長は、子供たちと同様に、一人一人の教師も個性を大事にしながら、芝園小学校で自己実現してほしいと語ります。そのような理念の下、教師一人一人の授業を芝園スタイルの枠にはめるのではなく、一人一人の授業に芝園スタイルを取り入れていくというスタンスで授業づくりに取り組んでいます。

その中で、授業づくりを牽引する2人の教務主任（教育課程担当・研究担当）は重要な役割を担います。授業づくりの方向性を提案しつつ、各教師の問いを引き出し、意見交換をコーディネートします。研究授業等の機会には、単元の構想段階から授業者とともにことごとく検討を重ねるそうです。ここで基本をおさえ、日々の授業についても同様の考え方で質の高い授業の実現を図っています。

また、校務のデジタル化を推進し、各学年・各教科での授業づくりの成果や子供たちの様子をストックして職員室全体で共有する体制を整え、それぞれの教師の日々のチャレンジをバックアップしています。

「一人の成果はみんなの財産。」と、鵜飼教諭は何度も語ります。芝園小学校の授業づくりの挑戦は、これからも続いていきます。

6. 終わりに

芝園小学校では、教職員集団による意欲的な授業研究によって、子供一人一人が学びの主役となる「複線型」の授業スタイルが確立されつつあります。しかし、過去には子供の学びを複線型にすることが目的化・形骸化してしまった時期があったといいます。こうした課題に対し、子供の主体性を引き出し育みながら教科の本質としての学びを実現するという本来の目的に立ち返って授業づくりを進化させてきました。

授業者としてこのような時期を乗り越え、現在は校内の研究をリードする柳田教諭は次のように語ります。「教科の本質から外れてしまったら、その先の授業の発展はない。このような考えを基に、まさに問題解決的な発想で、みんなで授業研究を進めています。ここが芝園スタイルのブレない強みです。」

本記事が、全国の多くの先生方にとって、子供たちが主体性を発揮し、自己調整しながら資質・能力を身に付けていく授業への改善に向けて、その一歩を踏み出すきっかけになることを願っています。

実践編③

「豊かに学び合う環境」で
子供の学びに寄り添う！
名古屋市立山吹小学校の挑戦

自律した学び手を育む 「山吹セレクトタイム（YST）」



【実践編③】 自律した学び手を育む「山吹セレクトタイム（YST）」 ～「豊かに学び合う環境」で子供の学びに寄り添う！

名古屋市立山吹小学校の挑戦～

愛知県名古屋市では、「Nagoya School Innovation（ナゴヤ スクール イノベーション）」として、ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子供を育むため、大人が子供に伴走し、「子供中心の学び」を進める学校づくりを推進しています。

（Nagoya School Innovation）

<https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/>

山吹小学校は、「子ども一人ひとりの個別の発達に焦点をあて、違いから豊かに学び合う環境の中で、子どもたちが自らのペースで、自らの興味・関心や能力、進度に応じて、自律して学ぶことを最大限に尊重する学びづくり」を実践しています。

本記事では、その中でも、「山吹セレクトタイム（YST）」というユニークな実践を取り上げ、授業実践やインタビューから、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を進めるためのヒントを探っていきます。

1. 取組のポイントと経緯～「山吹セレクトタイム（YST）」とは？～

山吹小学校が全校で実施している「山吹セレクトタイム（YST）」とは、複数教科の単元計画をあらかじめ子供に示した上で、その中から子供自身が学習計画を立て、自分に合ったペースや方法で学ぶ時間のことです。令和2年度から一部の学年で取組を始め、令和3年度に全学年に広げて全校で取組を進めてきました。この取組の根底には、「自律して学び続ける子供を育てる」という、山吹小学校の教育理念があります。

「山吹セレクトタイム（YST）」は、「いつ、何を、どのように学ぶか」を、子供が自分の興味・関心や能力、進度に応じて自ら計画を立てて学習を進めます。国語・社会・算数・理科・生活科（低学年）を対象に行い、学年や時期に応じて週5～10時間程度、この時間を設定しています。

4年4組時間わり(11/4~11/8)名前()

	月(4)	火(5)	水(6)	木(7)	金(8)
		サークル対話 報告会	ふれあい活動 報告会	クイズ会社20分	★ミニYST
1		国語テスト 国語インストラク ション	★	音楽 永田先生	★
2		外国語 夏帆先生	★	図工(室) 感想画・考 発表会	★
3		理科インスト ラクション★	書写 山下先生 毛筆	★	今週のふり返り と来週の予定
4		社会インスト ラクション★	★	会社活動	10月11日 のお誕生日会
5		★	★	★	
6		キャリアフェ スに向けて学級 で★	ふれあい活 動 分かれ		
					40分休憩 13時下校

★YST(やまぎせレクトタイム) 自分が大切にしている7つのエッセンスは何？
 [今日の課題] 自分の力を人のために使う。自分と相手をよく知って

文化の日のふりかえ休日

6 日水曜日

今日の特長
はなもく
れんらく
名ふだ
さうさ
お
あそび

2728

ふり返り 復習の達成 /

項目	達成状況
国語	ふみかみの命 読後 次の読後 テスト直し 再テスト
算数	算数 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間 3時間
外国語	外国語 3時間 3時間
書写	書写 3時間 3時間
図工	図工 3時間 3時間
音楽	音楽 3時間 3時間
社会	社会 3時間 3時間
理科	理科 3時間

たとえば4年生の時間割を見てみると、通常の形式とは大きく異なっています。時間割の★印が「山吹セレクトタイム（YST）」の時間です。子供たちは、国語・社会・算数・理科の中から取り組む教科を選び、自分なりの計画を立てて学習を進めます。当然、子供一人一人の学習計画は十人十色。教室には子供たち一人一人の異なる多様な学びが展開されます。

2. 授業づくりのポイント～子供一人一人の計画に沿った多様な学び～

① 子供一人一人が学習計画を作成

教師が週末に翌週の予定が記された「週計画表」と、翌週に取り組む各教科の内容や目指すゴール、時間数の目安などが記入された「単元進度表」を配付します。子供たちはそれらを参考にしながら、「山吹セレクトタイム（YST）」の時間に「どの教科の内容をどのように学習するか」を考え、計画を立てます。教師は子供たちの学習計画表をチェックし、必要に応じてアドバイスします。

4年理科 単元進度表

単元名 「人の体のしくみを理解しよう!!」

単元のゴール

- ・ 人が体を動かすことができるのは、骨と筋肉のはたらきによることを理解することができる。
- ・ 人や他の動物について観察したり、調べ学習を行ったりして自分の問いを解決することができる。



時間	「今日のゴール」	教科書	理科ノート	ふり返りの〇〇 (一巻学んだこと)
1	・ インストラクション 「うでがずももうでやってみよう」 うでの様子を比べて話し合うことができる。	110	15	()
	・ 骨のつくりと、うでの関係について調べ、分かったことをまとめることができる。	112 113	15 16 18	()
2	・ うでのきん肉は、どのような動きで動いているのか調べ、わかったことをまとめることができる。	114	19	()
	・ 「グループズ」 「もけいづくりに挑戦!!」 結果をまとめることができる。	116 118 119	() 20 21	()
3	・ 体全体の骨ときん肉は、どのようなつくりやしくみになっているのかを理解することができる。	120 121 123	22 23 24	()
	・ 学習のたしかめ、まとめ きん肉のことをまそう	124 125 126	26 27 28	()
7	・ テスト	127	()	()

【単元をふり返って】



体と運動






進度表

① 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

② 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

③ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

④ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑤ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑥ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑦ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑧ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑨ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑩ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑪ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑫ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑬ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑭ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑮ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑯ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑰ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑱ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑲ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

⑳ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉑ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉒ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉓ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉔ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉕ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉖ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉗ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉘ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉙ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉚ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉛ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉜ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉝ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉞ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㉟ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊱ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊲ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊳ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊴ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊵ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊶ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊷ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊸ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊹ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊺ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊻ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊼ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊽ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊾ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊿ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊽ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊾ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

㊿ 骨のつくりと、骨のはたらきについて調べ、わかったことをまとめることができる。

單元進度表

② 単元インストラクション（導入説明）の実施

単元の最初の時間には教師が単元の目標や内容などを子供たちと確認するインストラクションを行います。単元での学習に関連する既習事項とのつながりや日常生活との結びつきなどを踏まえ、各教科の見方・考え方を意識させ、学びへの動機づけを図ります。読み聞かせ、動画等の資料提示、クイズや体験活動など、学習内容や子供の実態を踏まえて行います。

③ ルーブリックによる目標の共有

インストラクションでは教師が作成したルーブリックを用いて単元で身に付けてほしい学習内容や見方・考え方、学び方等を示し、それぞれ3観点3段階で設定された到達目標を子供と共有します。このルーブリックは学習指導要領に示された各教科等の目標・内容と子供たちの実態を基に、子供にとって分かりやすい言葉で作成します。子供が「どんな内容についてどのように取り組んでいけばよいか」という見通しをもち、自律して学習を進めることができるようにします。

理科 体と運動			◎○△で自己評価＋ 学んだことを文で書いています。	◎○△で自己評価＋ 感想を書いている。	書いていない・・・ 進度表がない！？
体と運動の 観察・実験について			観察・実験の結果を 絵や文でわかりやすく ノートに書き、結果 からわかったことを くわしく説明する ことができる。	観察・実験した内容 をノートに記録し、 結果からわかったこ とを書くことができ る。	ノートに何が書いてあ るかわからない・・・ 書いていないところがあ る。
ノート			生活経験や調べる活動 を通して、自らの問いを 解決し、わかりやすくま とめることができる。	学習した内容をふまえ て、体と運動についてま とめることができる。	体と運動の関係ってな に・・・？

ルーブリック

④ それぞれの計画に沿った学習の展開

子供たちが各自の計画に沿って学習を進めます。どの教科をどの教材を使ってどのように学習するかだけでなく、「どこで」「誰と」学習するかも子供自身で決めます。また、授業の最後には、子供一人一人が自分の学びと向き合い、学習の成果とともに、学び方についての成長を振り返って次時につなげます。教師は、子供たちの様子を丁寧に見取り、誰がどんな学習をどのように進めているかを把握し、子供一人一人に合わせて支援を行います。

⑤ 表面的な理解にとどまらないための工夫

教師は授業後に子供たちの単元進度表やノートなどの学習記録を集め、子供一人一人の学習状況を把握して、次時以降にどのような支援を行うかを検討します。個別の声掛けはもちろんですが、何人かの子供たちを集めて、あるいは学級全体に対して学習内容の深い理解を図るための支援をします。また、単元末にはレポートやスライドなどの学習成果物を作成したり交流したりして、さらなる学びの定着を図ります。

⑥ 「山吹セレクトタイム（YST）」の取り組み方についての丁寧な指導

子供が自律した学びを進めることができるよう、「山吹セレクトタイム（YST）」の進め方やコツ等を掲示物にまとめ、子供たちがいつでも確認できるようにしています。また、「ノートのまとめ方」などを示し、資質・能力の育成につながる質の高い学び方が身に付くように指導しています。

3. 実際の授業のワンシーン～多様な学びが穏やかに流れる時間～

チャイムや号令もないまま、子供たちが決まった時間にそれぞれの週計画表を取り出し、グループの友達とこの日の目標の宣言を始めました。4年4組西澤学級の「山吹セレクトタイム（YST）」の始まりです。教室が一気に賑やかになります。

「今日は国語の課題を進めます！」

「今日の算数は、昨日終わらなかった教科書問題から始めます！」

「今日は社会のまとめをやります。早く終わったら理科のノートまとめもやります！」

ある子に「今日は何をやるの？」と尋ねると、単元のねらいやゴールとして作成を目指す成果物、自分の進捗状況を詳しく説明してくれました。

4年4組時間わり(11/4～11/8)名前()					
	月(4)	火(5)	水(6)	木(7)	金(8)
1	文化の日のふりかえり休日	ワークル対話 国語テスト 国語インストラク ション	ふれあい活動 報告会	クイズ会社20分 音楽 永田先生	★ミニYST
2		外国語 夏帆先生	★	図工(室) 松嶋園一 等委員会	★
3		理科インスト ラクション★	書写 山下先生 毛筆	★	今週のふり回り と来週の予定
4		社会インスト ラクション★	★	会社活動	10月11月の お誕生会
5		★	★	★	
6		★	ふれあい 活動 分かれて		
持ち 帰					40分授業 13時下校

A児					
	月(4)	火(5)	水(6)	木(7)	金(8)
1	文化の日のふりかえり休日	国語テスト 国語インストラク ション	音楽 永田先生	★理科	
2		外国語 夏帆先生	★	図工(室) 松嶋園一 等委員会	★社会
3		理科インスト ラクション★	書写 山下先生 毛筆	★	社会 会社活動
4		社会インスト ラクション★	★	会社活動	10月11月の お誕生会
5		★	★	★	
6		★	ふれあい 活動 分かれて		
持ち 帰					40分授業 13時下校

B児					
	月(4)	火(5)	水(6)	木(7)	金(8)
1	文化の日のふりかえり休日	国語テスト 国語インストラク ション	音楽 永田先生	★理科	
2		外国語 夏帆先生	★	図工(室) 松嶋園一 等委員会	★社会
3		理科インスト ラクション★	書写 山下先生 毛筆	★	社会 会社活動
4		社会インスト ラクション★	★	会社活動	10月11月の お誕生会
5		★	★	★	
6		★	ふれあい 活動 分かれて		
持ち 帰					40分授業 13時下校

★「YST(やまぶきセレクトタイム)」自分が大切にしている7つのエッセンスは何？
 [今日の課題] 自分の力を人のために使う。自分と相手をよく知って

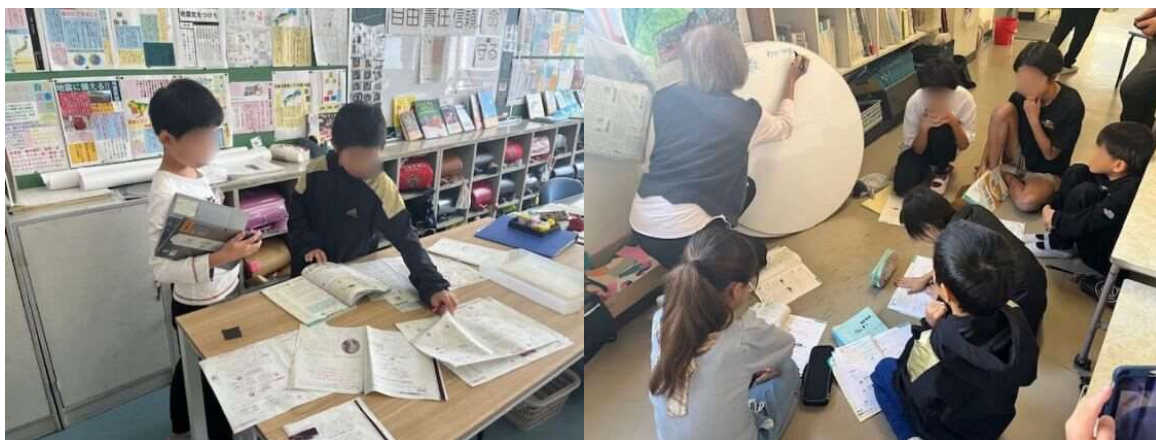
時間	内容	担当
1時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
2時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
3時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
4時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
5時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
6時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
7時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
8時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
9時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
10時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
11時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
12時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
13時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
14時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
15時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
16時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
17時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
18時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
19時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語
20時間	国語のあそび 国語のあそび 国語のあそび	国語

週計画表

5分ほど経過すると、教室は再び落ち着きを取り戻し、子供たちはそれぞれの課題にぐっと集中し始めました。算数に取り組む子供たちは「概数の計算」を学んでいました。はじめは一人で教科書の問題に黙々と取り組む子供がほとんどでしたが、しばらくすると、ある子供は友達と一緒に考えたり、友達に概数の意味や求め方を説明したりしていました。



学ぶ場所にも自由度があります。教室の後方には、問題プリントが複数用意され、子供たちは自分の理解度やペースに応じて活用していました。廊下では、西澤教諭の声掛けに応じて数人の子供が集まり、概数の計算について分からないところを出し合い、西澤教諭の説明を聞いていました。



国語の説明文「ウミガメの命」の紹介文の作成に取り組んでいた子供は、ウミガメの生態についてもっと知りたくなったようで、端末を活用して調べだしました。理科「体と運動」の学習をしていた子供は、生活経験を基にヒトの体が動く仕組みについて友達と一緒にじっくりと話し合い、理解を深めていました。



廊下での指導を終えた西澤教諭は教室に戻り、子供たちの様子を丁寧に見て回りながら、問題にまづいている子供、次の学びの進め方に悩んでいる子供に対して、その子に合ったアドバイスをしていました。

※授業ハイライト動画（「note」に掲載）

2時間続きの「山吹セレクトタイム（YST）」の最後には、振り返りをグループの友達同士で伝え合う子供たちの声が教室に響き、授業が終わりました。

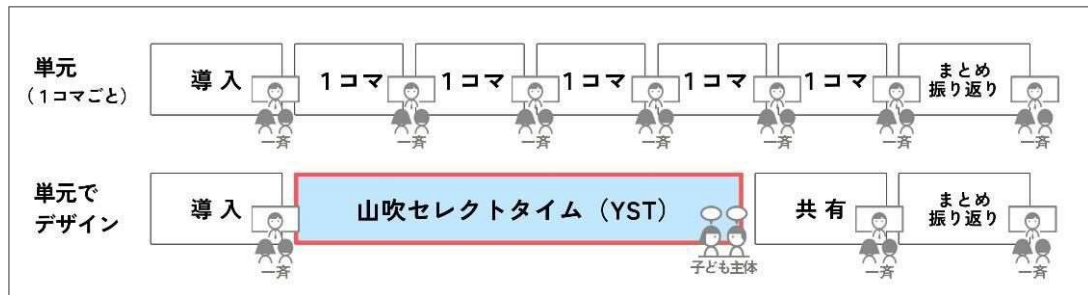
4. 授業づくりのポイント～授業＆西澤教諭・大橋教諭インタビューより～

西澤学級では、子供たち一人一人が自分の学習計画に基づいて学びを進め、教室において多様な学びがごく自然に展開されていました。そのような学びを成立させる重要な要素を、授業の様子や授業後のイ

ンタビューから紐解きます。

（１）自律した学びを可能にする単元デザイン

「山吹セレクトタイム（YST）」では、各教科の学習を単元で計画しています。1コマずつの細切れの計画では、子供が自分の興味・関心や能力、進度に応じて自ら計画を立てて学習を進めることは困難でしょう。単元を基本に学びをデザインするからこそ、子供たちは学習のゴールを見据えて、一定のスパンの中で自分の学びを調整しながら学習を進めることができます。



単元でデザインする際のイメージ図

（２）多様な学びを支える学習環境デザイン

教室環境にも目を向けてみます。黒板には子供たちが取り組んでいるルーブリックと単元進度表が掲示され、子供たちは必要に応じて確認しながら学びを進めていました。それらの下には子供たちの顔と名前が記されたマグネットが貼られています。計画していた内容を早く終わることができた場合は、自分でマグネットを移動させます。誰がどんな学びをしているかを可視化することで、子供たちが「誰と学ぶか」を決める情報ツールにもなっています。



黒板に掲示されたルーブリックや単元進度表

教室全体を見渡しても、多くの工夫がありました。机はグループ形式が基本になっており、教室の前方に置かれた作業台には子供がいつでも使えるように様々な文房具が用意されています。後方の大きなテーブルには学習プリント等が用意され、子供たちがプリントを選んだり、その場で丸付けをしたり、ときには友達と

一緒に考えたりするスペースとなっています。窓際にはロッカーを衝立替わりにして静かに学べるコーナーがあり、その他に数人で集まって学べるコーナーもあります。



西澤学級の教室環境

実際の授業では、「どこで学ぶか」も子供たちが決めていました。学習内容やペース、一人で学ぶか友達と一緒に学ぶかなど、その時の自分の学びの状況に合わせて、その都度、学ぶ場所を決めていました。山吹小学校では、低学年のうちから「どこで学ぶか」選択基準を示し、子供たちとの対話を通して考えさせたり、中学年では「本当に集中できるのはどこか」「どんな活動をする時に友達と一緒にがいいのか」などを振り返る機会を設けたりしています。こうした意図的・計画的な指導によって、子供たちは徐々に自分に合った学び方を判断できるようになり、学習への主体性が高まっていくのです。

（３）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のための教師の意識や考え方

授業を取材した西澤教諭と大橋教諭に、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現するために大切にされていることについてインタビューしました。

「個別最適な学び」の実現に向けて、西澤教諭は次のように語りました。「まず、子供一人一人の特性や個性を教師がまるごと受けとめ、その子に合った学び方を子供とともに考えていくことが大事です。また、ただちに該当学年の学習内容に取り組むことが困難な子供たちに対しても、下学年の内容をそのままやり直させるのではなく、該当学年の学習をベースにしながら教材・学習課題を工夫することで、その子なりの学びを積み重ねられるようにすることが大切です。」

大橋教諭は、その子に合った学び方となるよう、学習内容、学習材料、学ぶ時間やペース、場所等、多様な選択肢を用意し、その中から子供が適切に選択できることが重要と言います。いずれも、子供一人一人にとってよりよい学びとなるように、発達段階や個性を踏まえながらの支援を心掛けているそうです。

「協働的な学び」の実現に向けて、西澤教諭は、子供たちそれぞれの強みを生かして関わり合うことが、あるべき協働の姿だととらえています。そのため、子供たちが互いを認め合い、自分らしく関わり合うことのでき

る関係を築くことを重視しています。「子供はもともと協働したがつている。それができないのならば、協働を妨げているものを取り除いてあげるのが教師の仕事」と語ります。大橋教諭も、「地盤固め」と呼ぶ子供同士の良好な関係づくりを基盤にしつつ、学習内容に応じて単元の中で子供同士が関わり合いながら学ぶ活動を意図的に設定することで、協働の促進を図ることも大切にしています。



友達や教師との関わりの中で学ぶ子供

西澤教諭、大橋教諭ともに、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るには、子供が互いを尊重する安全安心な関係性の中、子供一人一人が安定した心持ちで自分らしさを発揮できる学級文化を育むことが不可欠と語ります。子供同士の関係性や学級文化も、子供たちが「豊かに学び合う環境」のひとつと言えるでしょう。

5. 学校全体で取り組むポイント～傳佐校長インタビューより～

山吹小学校でも毎年4月に異動などにより職員構成が変わります。そのため、「山吹セレクトタイム（YST）」を全学年・全学級で進めていくために、毎年4月から職員研修の場を設け、取組の共有を図っています。

そうした中で、傳佐校長は、最も重要なのは、「なぜ、このような取組をするのか」という目的や意義を共有することだと語ります。「山吹セレクトタイム（YST）」を全校で実施するようになって4年。「やり方」を継承するだけでなく、目指すところをしっかりと意識すること。「自律して学び続ける子供」を育てるという目的に向かって実践力を高め合うこと。そのために、教員同士の心理的安全性を高め、教員一人一人の強みを生かしていくことも大切といいます。

また、「山吹セレクトタイム（YST）」の取組を保護者にしっかりと伝えていくよう努めています。子供たちにどのような学びを実現していこうとしているのか、取組の目的や意義、学習の進め方等について伝えるとともに、取組に対する保護者の疑問や心配な点に対しても直接の対話や広報誌等を通じて丁寧に答え、共通の理解を得られるようにしています。学校と保護者・地域が一体となって、「自律した学び手」を育もうとしているのです。

6. 終わりに

山吹小学校の「山吹セレクトタイム（YST）」は、子供一人一人の興味・関心や能力等を最大限に尊重しながら、自ら学ぶ楽しさを味わわせると同時に、自分で選択することに対する責任感も育てながら「自律した学び手」を育成していく取組でした。そのために、子供が様々な選択・決定できる単元デザインと自分に合った学びを進められる環境デザインについての知見を蓄え、子供一人一人の違いに寄り添いながら実践を積み重ねていました。

本記事が、全国の多くの先生方にとって、目の前の子供たち一人一人を見つめ直し、全ての子供たちを誰一人取り残さずに資質・能力を育成する授業へと改善していくヒントになってほしいと願っています。